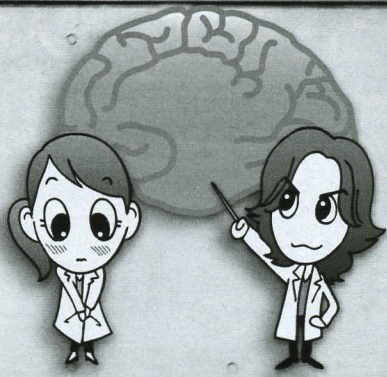


# 科学警察研究所



# MR. BRAINで注目の科警研に潜入! 陰毛の専門家もいるんです!

5つの秘密を追跡

ドラマと現実とは別。子供じゃないんだから、そんなことは百も承知。キムタクみたいな男も、綾瀬はるかのような美人も、現実にはいるはずない。そこで本物の科警研を調査すると、なんとドラマ以上にトンデモナイところだった?!



99年に東大柏キャンパスの近くに移転した

## 秘密1

科警研には「脳の研究をする部署」はない!

ドラマ「MR. BRAIN」(TBS系・土曜夜7時56分)は第2回の視聴率が22.0割と絶好調。キムタク演じる九十九龍介が勤務しているのが科学警察研究所(科警研)だ。

「科警研は警察庁の付属機関で、犯罪科学に関する総合的な研究機関。科学捜査の研究や実験、鑑定や検査などをおこなっています」(科警研広報担当)

千葉県柏市にあり、指紋、音声、DNA、薬物、心理学の研究をおこなっている。なかには性犯罪の証拠物件として、陰毛を鑑定し、個人を識別することを専門に研究している人もいる。

「高度な鑑定や、各都道府県警の科学捜査研究所では対応できない鑑定を、科警研が取り扱います」(同広報担当)

だがキムタクが属している脳科学を専門に扱う部署は、「存在しません」(同広報担当)。

ドラマでも新設の部署という設定だが、まだまだ脳科学での捜査は難しいようだ。

## 秘密2

キムタクのようなヒーローは不要な存在だ

「MR. BRAIN」ではキムタク演じる九十九が事件現場に乗り込み、直接事件を解決する。「もちろん実際にはないこと。そもそも忙しくて、時間がない(笑)」

と話すのは、かつて科警研の副所長も務め、現在は(株)鈴木法科学鑑定研究所代表・鈴木隆雄(70)だ。

「研究員ができることは、1つの可能性を導き出すことです。たとえば指紋の場合、完全ではなく汚れなどで一部しか見えなければ「70割は一致している」など」と見解を述べ、可能性がある旨を回答します。刑事さんたちは可能性があることがわかれば、他の証拠を探し、犯人を絞りこみ、捕まえます。また現在のDNA鑑定は、ほぼ100割に近い精度ですが、たとえば犯人が触った名刺があったとしても、そこには同じ名刺を触った他人のDNAも付着している。DNA鑑定だけで「100割の人が犯人」という答えにはたどり着きません。ですから、ドラマのように1つの分野だけの鑑定で、事件を解決するスーパーマンは存在しませんし、自分かスーパーマンだと思っ込んだ人間ほど、厄介なものはありません」

劇中でもキムタクの役はKYだという設定だが、実在したらとんだ迷惑だ。

「捜査を支援する鑑定は正確さが必要。ひとつの鑑定で8割方当たっていても2割が違っなんて状況はいけません。だから少しでも怪しいと思ったら「わからない部分がある」と答えます」